

C-13 産婦人科選択プログラム

概要

(1) 産婦人科選択プログラムは、選択科目として産婦人科を選択する場合の研修プログラムである。

(2) 当院産婦人科および産婦人科選択プログラムの特徴:

産科・周産期領域では、二次医療圏で唯一NICU、MFICUを設置し、ハイリスク妊娠を取り扱っている。婦人科悪性腫瘍、女性内分泌疾患に対して専門医が診断と集学的治療に取り組んでいる。選択プログラムでは、1ヵ月の選択必須プログラムでは到達困難な産婦人科領域のより幅広い知識と技量の習得を目指している。小児科・新生児専門医を志望する研修医のための産科・周産期領域の研修、外科専門医を志望する研修医のための骨盤外科の研修等の様々なニーズに対応することができる。

特に、初期研修終了後に産婦人科の専攻を志望する研修医に対しては、鳥取大学医学部附属病院と連携し、同院の女性診療科において1～3ヵ月の研修が可能な体制で臨んでいる。

(3) 選択期間中には指導医と相談の上、研修医一人ひとりが自分のキャリア育成に合致したSBOsを設定することができる。一方で、選択科研修中においても、中央病院プログラムが2年間で必要と定めた中央病院一般目標GIOならびに行動目標SBOs(EPOC)の達成度を上げる必要がある。

指導責任者: 岡田 誠

目標

一般目標(産婦人科選択研修 GIO)

将来遭遇しうるいかなる状況においても思いやりを持ちながら良質な全人的医療を行うために、産婦人科疾患の知識・診断・技術を習得することを通して、将来の専攻する診療科にかかわらずプライマリケアの臨床に必要な基本的診療能力(態度、技能、知識)を修得する。

行動目標(産婦人科選択研修 SBOs)

- 個人が決めるSBOs
- 診療科が薦めるSBOs
- EPOCで定める目標

診療科が薦めるSBOs

1. 産科婦人科領域の基本的診断法
 - ・月経歴・妊娠歴を加味した問診と病歴の把握ができる(解釈)
 - ・内診所見, 画像診断所見(超音波検査, CT, MRI など)の結果により内, 外性器の評価ができる(解釈)
 - ・ホルモン測定オーダーすること, 分析ができる(問題解決)
(分析とは異常か正常がわかる, 診断ができること)
2. 周産期領域
 - ・妊婦検診の一般的手技を説明できる(問題解決)
 - ・胎児心拍数図を正しく評価できる(解釈)
 - ・超音波断層法(胎児計測, 胎児異常)の分析ができる(問題解決)
 - ・正常妊娠における母体変化の評価と胎児の発育・成熟の評価ができる(解釈)

- ・異常妊娠および異常分娩における胎児の病態の特徴を説明できる(想起)
 - ・正常分娩, 異常分娩を経験する(技能)
 - ・正常新生児の管理ができる(問題解決)
3. 婦人科腫瘍領域
- ・子宮頸癌・体癌のスクリーニング検査(細胞診)結果の判定ができる(解釈)
 - ・子宮頸部拡大鏡, 子宮検査鏡の適応を列挙できる(想起)
 - ・婦人科腫瘍の画像診断(超音波検査, CT, MRI)ができる(技能)
 - ・婦人科悪性腫瘍の治療(手術療法, 化学療法, 放射線療法)について基本的な考え方を説明できる(想起)
 - ・婦人科手術の経験を通じ基本的な外科手技を習得する(技能)
 - ・術前・術後管理の基本を理解する(解釈)
4. 生殖・内分泌領域
- ・不妊症の原因, 診断の進め方, 治療法について説明できる(解釈)
 - ・内分泌疾患について具体的に説明できる(想起)
 - ・不妊症, 内分泌疾患に対するホルモン療法を説明できる(想起)
 - ・腹腔鏡検査の適応を列挙できる(想起)
 - ・更年期以降の好発疾患について, 病態, 診断法, 治療法を理解する(解釈)
5. その他
- ・婦人科急性腹症の初期対応ができる(問題解決)
 - ・女性患者の心理に配慮しながら診察できる(態度・習慣)

EPOC で定める目標

1. 産婦人科で必ず修得しなければならない EPOC 項目(マトリックス表で)

A-2-5 泌尿・生殖器の診察

B - 1 経験すべき症状、病態、疾患

B-2-11 流産・早産および満産期

B - 2 経験が求められる症状・病態

B-3-9 妊娠分娩・生殖器系

(1) 妊娠分娩

(2) 女性生殖器

B-3-14 感染症

(5) 性感染症

C 特定の医療現場の経験

C-4 周産・小児・成育医療(周産・小児・成育医療の現場を経験すること)

(5) 母子手帳を理解し活用できる

2. 産婦人科で修得するのが望ましい EPOC 項目(マトリックス表で)

A-1 医療面接

A-2-1 全身観察

A-2-4 腹部の診察(直腸診含む)

A-3-1 尿検査

A-3-3 血算・白血球分画

A-3-4 血液型判定・交差適合試験

A-3-7 血液生化学検査

A-3-9 細菌学的検査・薬剤感受性検査

A-3-12 細胞診・病理組織診断

A-3-14 超音波検査

A-3-17 X線 CT

A-3-18 MRI 検査

A-4-10 導尿法

A-4-16 皮膚縫合法

- | | |
|-----------------|----------------|
| A-6-1 診療録作成 | A-7-1 診療計画作成 |
| A-6-2 処方箋、指示箋 | A-7-2 診療ガイドライン |
| A-6-3 診断書、死亡診断書 | A-7-3 入退院適応判断 |
| A-6-5 紹介状、返信 | A-7-4 QOL 考慮 |

B - 1 経験すべき症状、病態、疾患

- B-1-3 食欲不振
- B-1-4 体重減少、増加
- B-1-5 浮腫
- B-1-25 嚥下困難
- B-1-26 腹痛
- B-1-27 便通異常
- B-1-28 腰痛
- B-1-33 排尿障害
- B-2-8 急性腹症

C 特定の医療現場の経験

- C-1 救急医療(救急医療の現場を経験すること)
 - (6) 専門医へのコンサルテーションができる
- C-2 予防医療(予防医療の現場を経験する)
 - (2) 性感染症予防・家族計画を指導できる
- C-4 周産・小児・成育医療(周産・小児・成育医療の現場を経験すること)
 - (1) 発達段階に対応した医療が提供できる
- C-6 緩和ケア・終末期医療(臨終の立ち会いを経験すること)
 - (1) 心理社会的側面への配慮ができる
 - (2) 治療の初期段階から基本的な緩和ケアができる
 - (3) 告知をめぐる諸問題への配慮ができる
 - (4) 死生観・宗教観への配慮ができる

3. 全ての科で目標とする項目(マトリックス表では)

I. 医療人として必要な基本姿勢・態度

- (1) 患者-意思関係、(2) チーム医療、(3) 問題対応能力、
- (4) 安全管理、(5) 症例呈示、(6) 医療の社会性

方略(LS)・評価(EV)

- B-21 産婦人科(必修)プログラムを参照